

防災連絡会議だより

17号

(令和3年10月20日)

発行 北斗市防災連絡会議

柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺

正岡子規

だれもが知る正岡子規の有名な俳句です。柿は秋の季語。雪虫が飛び、17日には上空に寒気が入り、横津岳でも初冠雪となりました。冬の到来を感じますが、我が家の庭の柿の木に小さな柿の実が沢山なっています。柿の木は母が食べた柿からとった種から育てたもので、樹齢10年と若い柿の木です。

奈良は柿の産地で、柿の葉寿司もまた有名です。上の句が詠まれたのは、日清戦争が終わった1895年10月26日。この日は雨だったようです。正岡子規が28歳の時でした。

災害への備えも含めて色々な意味で冬に備えましょう。できたら冬も楽しみたいものです。

(庭の柿の木)



北海道上磯高等学校、災害対応(避難所運営 Do はぐ)訓練に参加して

田原勝昭(久根別)

終わってみると、コロナ禍の不自由な中、随分と大掛かりな訓練であったと思う。

オンライン(zoom)を駆使し、上磯高校が道庁総務部危機対策課、渡島総合振興局総務部防災担当、道防災士会を結び、それに地元北斗市防災連絡会議が協力して実に緊張感あふれる内容で、過去何度かこの種の訓練に参加したが、単なる机上の訓練とは違い、貴重な体験となった。

一方、訓練参加の上磯高校の生徒は、通常の校舎内の避難訓練は経験があったと思うが、今回は生徒自らこのような「DO はぐ」訓練を体験したのは初めてではなかったか。しかし、普段パソコンやゲームに慣れている生徒にとって入りやすい分野だと感じた。

この訓練の結果から、地域にとって参加の生徒は避難所運営等災害対応に大いに「力」になる存在と確信したし、これら生徒が社会にでてから、この経験が必ず生きてくると感じた。関係者には、今後の検証を期待したい。

地域と連携した先進的な上磯高校での(Do はぐ)演習

9月17日、上磯高校で防災教育の一つとして北海道版(Do はぐ)演習が実施され、事務局から3人、連絡会議から田原勝昭さん、木村秀美さん、それに代表3人がアドバイザーとして参加しました。

「はぐ」を高校などで実施するのは全道的には珍しい事で、学校を地域がサポートしながら共に学ぶことは大きな意義があると思います。上磯高校で防災教育を担当している伊藤友彦先生から生徒たちの感想をいただきましたので、その一部をご紹介します。

<北海道版（Do はぐ）をやってみた感想>

- やる意味がないなーと最初は思っていたけど、やっていくにつれて、やる意味の重要性などをしっかり理解できた。みんなで意見を出しながら考えることができてよかった。
- 実際はもっと大変で忙しいのだろうなと感じました。運営する側の瞬時に状況を整理し、冷静に考える力が重要になってくるのがよくわかった気がします。
- 想像以上にとっても大変でした。実際に災害が起きた場合、どうしなければいけないのか、すごく考えさせられたゲームでした。

<災害に対する自分の備えについて気をつけようと思ったこと>

- もっと身近に災害について考えて、日ごろから自分たちがすぐにできる対策について、考えなければいけないなと思いました。
- 今まで、一度も災害キットのようなものを持ったことがないので、これを機に備えてみたいと思いました。家族と相談して、どこに逃げるか、どこで合流するかをしっかりと決めておきたいと思います。
- 災害はいつくるのかわからないし、荷物を用意しても邪魔になるだろうと思っていたけど、いざ災害に遭った時に、食料と水がないと生きていけないし、冬だったら防寒グッズもないと死ぬなと思いました。

<アドバイザーの方々へのメッセージ>

- やり始めた時はよくわからなくて、オドオドしていた時に、教えてくれたり、判断に困った時にも、一緒に考えていただき、ありがとうございました。
- どんどん人が来てしまっって、焦っているときに「病気の方から先に入れないと」など、アドバイスをくださったおかげで、冷静に対処できました。
- 見守ってくれたから、自分たちで考えて行動することが多く、勉強になり、いい経験になった。

避難所に避難した経験はありますか？ <避難所について考える>

北斗市の避難所開設と言えば、2011年3月の東北地方太平洋沖地震の時の事を思い出す方が多いかと思います。北斗市では、震度4の揺れを感じ、避難勧告、さらに避難指示を出して避難所を開設しています。また、記憶に新しい所では2018年7月、土砂災害警戒区域に指定されている茂辺地地区、大野地区などに避難勧告が出され、避難所が開設されています。市渡では土砂の流出があり、「避難したある住民はこんなことは初めて」と話しています。数年前、私が住む大工川でも大雨の影響で内水氾濫が起こり、床下浸水程度ですみまし

たが、総合体育館に住民約 30 名が避難するということがありました。

避難所が開設された時期を見ると、冬の寒い時期ではありませんね。もし、冬に地震や津波による自然災害が発生したらどうなるのでしょうか？ 冬の避難所の問題点について、9月9日の研修会資料からピックアップしてみました。



<体育館を避難所にした場合の問題>

- 停電により暖房ができない。体育館の気温は氷点下？
- 避難後、衣服が濡れていると低体温症となり、危険な状態になります
- 市の担当者が遅れる、トイレや食事はどうなる？
- コロナ対策も必要。
- ※マスクなど以外にスリッパを各自用意することも大事だそうです。

<避難所における女性等弱者の立場からの問題>

- 仕切りがなく着替えができない。
- 洗濯物を干すとき、男性の視線が気になる。
- 授乳室がない。
- 女性用のトイレが少ない。

避難所の問題を女性等弱者の立場から考えることは大事なことです。実際、避難所ではハラスメントなどの問題も起きているそうです。

防災活動もそうですが、市の様々な課題解決のために、女性が参画することは大事なポイントです。クウォーター制の導入なども検討すべき課題と思いますね。

住み続けられるまちづくりのために これも SDGs の目標！

学校教室の掲示板には「SDGs 誰一人取り残さない」という教育目標が掲げられています。この SDGs とは国連で 2015 年に採択した「持続可能な開発目標」です。貧困をなくそう、エネルギーをみんなにそしてクリーンになど、地球規模の大きな問題を解決するために 17 の目標が設定され、この目標に向かってそれぞれの国がそれぞれの国の方法で 2030 年までに目標を達成しようというものです。すべての国が SDGs に賛成しているのが大きな特色です。

この SDGs（持続可能な開発計画）の理念は「変革」と教育目標にもある「誰一人取り残さない」です。北斗市は教育目標では SDGs の理念を掲げ、北斗市の地域防災計画（令和 2 年 3 月）にも SDGs 11（住み続けられるまちづくりを）と SDGs 13 の（気候変動に具体的な対策を）に触れています。



防災活動だけでは地域の問題は解決しないと思います。それは、住み続けられるまちづくりを考えていけば、農業・漁業・林業は、商店街は、ガソリンや灯油などのエネルギーは、道南いさりび鉄道やバスなどの交通機関は、人口減少による学校の存続は、世帯数減少、役員不足の町内会はといった様々な問題にぶつかるからです。

SDGs の活動は北斗市でも始まっています。また、北斗市の広報でも SDGs について紹介していますので、自分事として考え、何かできることを実践してみませんか。

『防災係活動日記 vol.2』 * * * * *

皆さん、こんにちは。事務局の伊川です。先日は横津岳で初冠雪が観測されましたね。気圧配置が西高東低となり、秋を通り越して一気に冬になった感じがします。

会員の皆様におかれましては、まだ10月とはいえ朝夕は意外なほど冷え込む日がありますので、風邪などひかれないようにお体には十分お気をつけてください。

さて今回は、9/9に開催された防災講座についての写真をお届けします！



※司会進行は緊張でカミカミでした…泣

日本赤十字北海道看護大学の根本昌宏教授、北海道防災教育アドバイザーの住友静恵さんにご講演いただきました。根本教授は、寒冷地の災害対応に関する実践研究をされている防災のスペシャリストで、「なるほど！」と思うことばかりの防災話を聞くことができました。

住友さんは女性目線からの心づかいや、今まで気づけなかったことをお話していただき、改めて防災の現場での着眼点について考える良いきっかけとなりました。

今回の講演は、市役所の職員にとってもはじめて学ぶことが多く非常に充実した時間となりました。私も防災を担当する職員の一員として早く市民の皆様へ「防災の大切さ」を伝えられるよう精進していきたいと思ひます。

伊川さん Good job! お疲れ様でした。＜防災連絡会議応援団より＞

秋の火災予防運動実施中

10月31日まで

最近、消防自動車のサイレンをよく耳にします。これからの時期は、火災が発生しやすく、火の取り扱いには十分に注意が必要です。ご近所でも「火の用心」と声かけをしましょう。火災予防も防災の守備範囲。守備範囲は広いですね防災は。

事務局 北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73-3111(内線 212) Fax 73-6970 [メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp](mailto:bosai@city.hokuto.hokkaido.jp)